

2番作野幸憲議員、登壇願います。

2番作野議員の質問時間は3時11分までです。

〔2番 作野幸憲君 登壇〕

○2番（作野幸憲君） 議席番号2番作野幸憲でございます。

議長に許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

まずは、先般急逝されました深田富造議員、私は二十数年前より公私ともに御指導をいただいております。御冥福をお祈りしたいと思います。

それでは、一般質問に移らせていただきます。

今回私が質問させていただくのは、財政健全化における義務的経費削減についてと市立病院を核とした医療・福祉エリアの充実について、そして防犯灯・街路灯調査の進捗状況についてでございます。

まず、財政健全化における義務的経費削減について質問いたします。

現在安来市において大きな議論となっているのが、昨年示された中・長期財政見通しです。この中の大きな論点は、事業の優先順位など投資的経費をどのように考えていくかということです。私はこの議論も非常に大切と思っておりますが、もう一つの論点として、義務的経費をどのように削減してくかもこれからの安来の将来の財政を考えたとき、避けては通れない重要な問題だと思っております。

平成23年度当初予算案の歳出においても、義務的経費は50%を超えております。皆さん御承知のとおり投資的経費とは、地方自治体の予算科目では、普通建設事業、災害復旧事業、失業対策事業を示すものです。また、義務的経費とは、人件費、扶助費、公債費を指します。私は、今回の質問では、特に扶助費、社会保障費の削減、抑制について絞ってお話をさせていただきます。なぜならば、人件費については第2次安来市行政改革大綱の中で平成17年度から定員適正化計画が実行されており、平成22年度までに530人から430人に100人削減するという取り組みが順調に進んでおります。計画達成後は、類似団体における職員数の比較など、新たな視点で取り組んでいくとうたっております。新たな視点とは、多分事務事業の抜本的見直しや組織の再編、民間委託などの推進なども入っていると思いますので、ブロードバンド利活用による効率化などのさまざまな要因を見てから判断してもよいのかなと思います。また、公債費については、国の状況などに多く左右される部分がありますので、今回の質問からは省きたいと思います。

そこで、社会保障費、特に医療費と介護費の削減、抑制について質問いたします。

市長の施政方針の中にも、社会保障費の自然増や医療、介護給付費の増による繰出金も

増加しており、ボディーブローのように財政に影響を与えておりますと述べられました。また、議会初日の予算説明の中でも、国民健康保険事業の保険給付費が予想以上に伸びていることを危惧しておられる発言もあり、また現状としては内部経費や投資的経費の削減で対応しているというお話もありました。そして、先日、平成21年度連結財務4表の説明の中でも、計上行政コストを目的別に見たとき、連結会計では福祉の占める割合は全体の52%にも及ぶと報告をいただきました。このように、医療や介護に係る費用をどのような方法で抑えていくかが将来の安来の財政にとって大きな課題だと改めて痛感いたしました。

ところで、ことし1月のNHKのテレビ番組の中で、長寿獲得コストという概念を耳にいたしました。全国10万人以上の市と区でがん死亡率が日本で一番低く、高齢者の医療費も全国平均より20%以上低い市が静岡県掛川市だと紹介があった説明の中から私は耳にいたしました。この考え方は、長寿を得るために係る費用を比べるための指数で、1人当たりの年間老人医療費を男女の平均寿命を足した数値で割ることで求められます。平成17年度の数値で全国全体の平均は、男性の寿命が78.8歳、女性の寿命が85.8歳で、1人当たりの年間老人医療費が82万1,000円で、これを1といたします。1より数字が大きいと長寿の割にはコストがかかっていること、1より数字が小さければ小さいほど長寿だけれども医療費もかかっていないことを示します。病気にかからず健康で長生きしているお年寄りが多いほど、長寿獲得コストは低くなるということです。例えば、女性長寿日本一の沖縄県北中城村は男性78.9歳、女性89.3歳ですが、老人医療費も88万283円かかり、長寿コストは1.04です。先ほど紹介した掛川市は、男性80.4歳、女性86.4歳で、老人医療費が62万4,337円で、長寿獲得コストが0.75で、全国平均の4分の3しか老人医療費にかかっていないということです。

そこで、お尋ねいたします。

長寿獲得コストという言葉は、まだ行政用語としては余り認知されていないようですので、今回は安来市の平成17年度の1人当たりの老人医療費は幾らでしょうか。また、男女の平均寿命はそれぞれ何歳でしょうか、お答えください。

そこで大切なのが、なぜ掛川市は長寿獲得コストが低いのかということです。また、掛川市は、なぜがん死亡率が日本一なのかということです。それは、健診などの事業が充実しているわけでも、医師が多いわけでもありません。かぎを握っていたのは、掛川市特産の緑茶です。常識を超える緑茶の健康パワーが、地元病院や大学、国の研究機関が行う調査で判明したのです。普通こういうメディアが流す情報は研究者によって意見が違うところが多いのですが、緑茶だと裏づける一因として、今までの調査は疫学調査のみで判断し

ていましたが、今回の調査では疫学調査プラス介入調査をすることによってお茶の効果が確定したということです。実際に、10万人以上の市や区のがん死亡率ランキングを見ると、男女それぞれ15市区のうち7つの市区がお茶の産地でした。ただ、緑茶を飲めばいいのかというところではなく、通常の倍くらい蒸してつくる深蒸し茶という、これがいいということもわかってきています。ここ出雲地方もお茶所、安来市にも伯太茶がありますので、こういう情報を得れば真剣に取り組みを検討してみる余地は私はあると思います。日本全体の長寿獲得コストが掛川市程度まで下がると、年間3兆円の国家予算が削減できる計算になるそうです。

私も、この話を耳にして、早速先日安来のお茶屋さんに向い、話を聞きました。店内に入ると、予想どおり深蒸し茶がメインでたくさん並んでいました。店の人に話を聞くと、伯太茶が深蒸し茶にすぐ使えるかということ、成分の関係ですぐには無理かもしれませんという話を伺いました。しかし、伯太茶の消費拡大や地産地消の面からも積極的に検討してみることは必要だと思います。私が今回このこととお話ししたのは、医療費を抑える方法が一つでも見つかったのであれば、行政が研究し積極的に政策に取り入れていく努力をしていただきたいからでございます。

そこで、長期的な考え方で、病気にかからず健康で長生きしてもらい、社会保障費を削減、抑制する方法とは何なのでしょう。新年度予算では、健診や予防接種などもかなり充実を図られる予定です。このような施策も大事だと思いますが、健診率がそれほど高くない現状を見てもそれだけでは不十分だと思います。私は、安全で安心でなるべくお金をかけずにできる生涯スポーツ環境の整備など、長期的展望に立った医療、介護費を抑えるための施策の構築が必要だと思います。

具体的には、昨年3月の定例会の一般質問でも提起させていただいた歩道を使ったウォーキングコースの設置や故深田議員が心血を注がれた鳥取方式による学校の校庭の芝生化などが挙げられると思います。実は、昨年12月、私の地元能義地区で、能義おたべウオーラリーというイベントを開催いたしました。その中で、歩道を活用したウォーキングコースの設置を地元能義体協で実施しました。県では広瀬土木事業所、また市では地域振興課を中心に、都市管理課やいきいき健康課のアドバイスをいただき、試行錯誤を繰り返した後、白鳥ロードの歩道にある縁石に100メートル間隔で約2.3キロにわたり距離表示をペイントしました。皆さん御存じではないと思いますが、県道や市道の歩道には、許可をもらえば文字の大きさや色などは関係なくペイントが自由にできます。ただし、だれが表示したか、表示者を明記しなくてはなりません。しかしながら、このときにかかった経費は

ペイントに使ったスプレータイプの塗料2本、1,800円ほどでした。現在は、ことしの雪などの影響でかなり色落ちした状態で課題もまだまだありますが、地域と行政が協働すればお金をかけずにウォーキングコースも設置できるということです。私がウォーキングコースにこだわるのは、平成22年度安来市健康実態調査で、ある程度継続して健康づくりのために意識的に運動している人の約半数の答えがウォーキングだったからです。また、学校の校庭の芝生化も、児童・生徒の体力アップや環境面、また学校と地域、家庭を結びつける施策として非常にすぐれていると思います。松江市や境港市を初め多くの市町が、安来市を追い越して芝生化に取り組むのは、学校と地域、家庭を結びつけるための施策としてとても有効だからだと私は思います。国勢調査の速報値が出てますます少子・高齢化に拍車がかかっている中、これからは行政が積極的に高齢者の皆さんの活躍の場をつくっていくことが大きな役割の一つになってくると思います。

そこで、お尋ねいたします。

安来市では、安全で安心できる生涯スポーツ環境の整備など、長期的展望に立った医療、介護費を抑えるための施策の取り組みはどのようなものがありますでしょうか。まだ、検討中であれば、これからどのようにしていくお考えですか、お答えください。

次に、視点を変えて、もう少しこのことについて質問をいたします。

安来市では、安来市総合計画を柱にいろいろな計画があります。健康づくりなどの観点からも、健康やすぎ21や安来市次世代育成支援行動計画、いわゆるやすぎ子育て・子育て応援プラン、そのほかにも安来市福祉計画、また現在策定中の安来市食育推進計画など、多くの計画が進められています。私も、安来市健康推進会議や安来市食育推進計画策定委員会のメンバーとして参画させてもらっています。さまざまな計画は、関係各位の皆様方の努力により非常によくできたもので、データ収集もすごく進んでいますし、目標値が設定してあるものも多く、県内、いや全国どの市町と比較しても自慢できるものだと思います。しかしながら、過去のこのような計画を見ても、できるまでは素晴らしいのですが、その後の進行管理などが不十分で十分に生かされていないのが実態だったように私は思います。

そこで、お尋ねいたします。

先ほど挙げたさまざまな計画を活用、連携させ、医療、介護費を削減、抑制するための本格的な施策はお考えでしょうか、お答えください。

先日、ある会議の議論の中で、児童・生徒の調理能力のなさを嘆かれた先生がおられました。今の子供は、家庭で料理することが少なく、包丁を使ってなかなか料理がつかれな

いそうです。このことは大変大きな問題で、この子供たちが大人になっていけば当然料理ができず偏った食生活になり、生活習慣病も今まで以上にふえ、社会保障費はますますふえていくということになります。このことを抑えるためにも、調理を教える施策を学校に任せるのではなく、例えば交流センターを中心に安来市食生活改善推進協議会、いわゆる食改さんなどの団体をお願いするなどして安来市全体で取り組んでいかなければならないと私は思います。また、そのことが子供と地域を結びつけることになり、地域に元気が出てくると思います。地域を明るく元気にするには、子供の存在が一番だと私は考えます。

また、家庭と学校を結びつける施策として、弁当の日も有効だと思います。これは、月に1回、最初は学期に1回程度で始めたほうがいいかもしれませんが、児童・生徒が自分で昼食の弁当をつくり、学校に持っていき、みんなでできばえを比べながら食べ、調理技術を上げ、弁当をつくる家族の苦勞を知り、家族とのコミュニケーションをふやしていける方法だと思います。この取り組みに似たおにぎりの日は、既に伯太校区で始まっております。そのほかにも、通学合宿などもどんどん進めていくべきだと思います。医療、介護費を削減するためには、中学校の給食も含め、子供から大人までの長期的、総合的な政策が必要です。

また、現在交流センターなども事業がマンネリ化しており、新年度何をしようか大変苦勞をしておられます。行政は、協働という言葉をよく使われますが、具体的な施策は余り示されていません。これからは、安来をどういう町にするかはっきりうたい、施策も提示していかなければ、医療や介護費の削減、抑制はもとより、いろいろなことがうまく進まないと思います。

私は、先ほど挙げたさまざまな計画が連携して活用できれば、素晴らしいものができると思います。しかしながら、それをするためには、庁内連携がもっとも必要になり、横ぐしを刺す部署を明確にし、権限を与えなければ進まないと思います。その意味においても、ファシリティーマネジメントは早急に導入すべきだと考えます。

次に、安来市立病院を核とした医療・福祉エリアの充実について質問いたします。午前中の田中武夫議員の答弁と重複する部分もあるかもしれませんが、よろしく願いいたします。

先ほどもお話ししたとおり、昨年末の国勢調査の速報値では、安来市の人口は4万1,604人で、前回調査よりも2,235人の減となりました。少子・高齢化の波は、安来市にも遠慮なく加速度的に押し寄せてきています。特に、広瀬町、伯太町の減少はすさまじく、減少人口の約半数近くが広瀬町、伯太町の減に当たります。

そこで、高齢化が進む中、高齢者が安心して生活できるエリアを確保し提供することも、これからは絶対に必要になってくると思います。私は、安来市で高齢者が安心して暮らすのに最適なのが、広瀬地区の市立病院を中心にしたエリアだと思います。この地域は、御存じのとおり月山富田城のふもとの由緒ある城下町で、文化、伝統もあり、また生活するにはショッピングセンターなどの買い物ができる場所や歩いていける距離に温泉もあり、子供たちと触れ合うことが可能な保育園もあります。また、新年度には、遊歩道の整備や三日月公園ふれあい館の整備なども完成する予定で、ゆったりと散策しながら健康で元気に楽しく過ごす環境としては抜群です。困ったときに相談できる市の部署もあります。しかしながら、高齢者が夫婦や1人で安心して暮らせる生活環境としては快適な住宅がありません。現在、日本各地では、民間の介護付高齢者マンションが評判になっています。高齢者マンションとまではいかないにしても、私はこの周辺に高齢者専用の住宅があれば、すばらしい環境のもと、老後を暮らせる医療・福祉エリアとして市立病院の位置づけも高まると思います。また、高齢者の人口流出を食いとめる一助にもなると思います。

そこで、お尋ねいたします。

今後、市営住宅の建てかえ時などに、その一部を移転してこの周辺に住宅を建てる計画などは考えておられないでしょうか、お答えください。

最後になりましたが、防犯灯・街路灯調査の進捗状況について質問いたします。

昨年9月の定例会の一般質問の市長の答弁で、防犯灯を初め街路灯をIT、パソコンで把握していこうという計画を立てております。担当も、かなり一生懸命やっておりますという答弁をいただきました。

そこでお尋ねします。

この計画は、どのくらい進んでいるのかお答えください。

また、あわせて、今年度県が2年計画で防犯灯設置事業を実施し、安来市も初年度補助を受けられましたが、新年度もこれを活用される予定があるのか。あれば、今年度は学校周辺に設置されましたが、新年度はどこを想定しておられるのか、方針が決まっていればお答えください。

以上で私の壇上からの質問とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

○議長（梅林 守君） 近藤市民生活部次長。

〔市民生活部次長 近藤 隆君 登壇〕

○市民生活部次長（近藤 隆君） 失礼します。

まず、私のほうから、作野議員の質問であります安来市の平均寿命及び1人当たり老人

医療費についてお答えさせていただきます。

まず、平均寿命であります。平成17年度のデータであります。男性が78.7歳、女性が87.2歳。また、1人当たり老人医療費であります。これも同じ平成17年度のデータで73万1,028円となっております。

以上、答弁いたします。

○議長（梅林 守君） 仁田市民生活部長。

〔市民生活部長 仁田隆敏君 登壇〕

○市民生活部長（仁田隆敏君） 失礼します。

私のほうからは、生涯スポーツ環境の整備と健康づくりに関する御質問についてお答えさせていただきます。

議員のほうから、歩道を使ったウォーキングコースの設置という例を挙げていただきました。昨年12月に開催された能義おたべウオークラリーにおきましては、作野議員が中心となって準備に奔走され、ウォーキングコースになった道路面に距離を表示し、歩いた距離がわかるようなコースづくりをされたことは非常によい先例をつくっていただいたものと考えております。交通に支障がないということが大前提でございますが、道路に距離表示を行うことも可能だということを今後他の地区や団体等にも周知しまして、健康のためのウォーキング奨励に努めてまいりたいというふうに思っております。

また、先ほどのウオークラリーには、市の行政組織における健康予防、スポーツ振興、道路管理の各部署がかかわって支援をさせていただきました。この例のように、医療費、介護費用を抑えるための長期展望に立った取り組みにつきましては、庁舎内の関係部署、これはもちろんでございますが、各地区の健康推進会議、交流センター、あるいは体育協会などとも連携をとることで市民の日常的な運動習慣意識を高めていけるものというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（梅林 守君） 石丸健康福祉部次長。

〔健康福祉部次長 石丸秀一君 登壇〕

○健康福祉部次長（石丸秀一君） 失礼いたします。

私のほうからは、健康やすぎ21、安来市次世代育成支援行動計画、安来市福祉計画、安来市食育推進計画等の連携についてお答えさせていただきます。

健康的な生活習慣づくりと病気や障害の有無にかかわらず生き生きと生活することを目指して健康やすぎ21、安来市次世代育成支援行動計画、安来市福祉計画等と整合性を図り

ながら取り組んでいるところでございます。

また、安来市食育推進計画は策定中ではございますが、現在食生活の乱れが心身の健康に及ぼす影響が懸念される中、健康的な生活習慣づくりには食育の推進も重要なものと考えておるところでございます。健康づくり支援の環境づくりとしまして、食育と地域の連携や安来市や健康推進会議の地区健康推進会議の活動をきめ細かく推進することによりまして、健診受診率の向上、教育啓発活動の徹底を図ってまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（梅林 守君） 井上基盤整備部長。

〔基盤整備部長 井上 博君 登壇〕

○基盤整備部長（井上 博君） 今後、市営住宅の建てかえの一部を市立病院周辺で高齢者向けの市営住宅を建てる考えはないかという御質問でございます。

現在、広瀬地区におきましては、石原町帳団地に高齢者に優しいユニバーサルデザインの住宅を建設しておりますし、今後建てかえを予定しております市立病院に近接した場所としまして、栄町住宅や小川内住宅に高齢者対応設備が整った低層の市営住宅を建設する予定にしているところでございます。

○議長（梅林 守君） 真野総務部長。

〔総務部長 真野善久君 登壇〕

○総務部長（真野善久君） 私のほうからは、防犯灯の調査状況、それから来年度の事業の計画についてという御質問がございましたので、お答えしたいと思います。

各自治会で設置管理いただいております防犯灯の実数とそれから場所、これを把握するために自治会長さんあてに文書で照会をしております。2月24日現在でございますが、全自治会392自治会中、353自治会から回答をいただいたところでございます。回答の際にはその場所も示していただいておりますので、パソコン上の地図に設置場所を今入れている作業を進めているところでございます。これが終わりましたら、あとは次には市が持っております街路灯等のものについても場所なりを入力をしていきたいということで、これが大体もうちょっと時間がかかります。これが完了いたしますと、住民の皆さんから照会があったものについてはどこが管理してるどういうものであるというのが短時間でお答えできるというふうな考え方をしているところでございます。

それから、県の補助事業、おっしゃいますように22年、23年、2カ年事業で実施されます。安来市としても、来年度もそれに向かっていこうということで今考えておりますが、具体的にはやはり小・中学校、高校、これの通学路、特に自治会で面倒を見れない、自治



会のエリアを離れたところの通学路というものを中心にしながら、具体的には新年度をもって関係機関で協議しながら場所は決めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○議長（梅林 守君） 2番作野議員。

○2番（作野幸憲君） 御答弁ありがとうございました。

まず、再質問の1つ目として、先ほど安来市の平均寿命と老人医療費を教えてくださいました。今ちょっと計算してみると、長寿獲得コストというものに当てはめてみますと、0.88という数値になりました。全国平均に比べても随分低いレベルで安来市は長寿を獲得するコストになっておると思いますが、このような数値になった、今現在なっている要因というのはどういうものが想定されますでしょうか。島根県自体が高齢化先進県でもありますし、いろいろな部分で高齢化のいろいろな政策が進んでいるのか。思い当たるところがあったら教えてくださいたいと思います。

それから、先ほど石丸次長さんのほうから御答弁をいただきましたが、連携して考えていくということのようですが、こういう政策については私は市長のお考え、現在の安来市の財政の中で連結してみると50%以上が福祉の予算だということがわかっているのであれば、ここはほかの事業をするためにも、内部経費や投資的経費のところを削減して回すのではなくて積極的にここを抑制、削減することも長期的なスパンに立って政策を打ち立てていただかないと、これは各部署でなかなか簡単にはできないと思います。市長さんの決意をお聞かせいただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（梅林 守君） 近藤市長。

○市長（近藤宏樹君） 市の財政の健全化、そしてそれを節約するというところでございます。これには、投資的経費を削減する、あるいは先ほど樋野議員が言われましたようにファシリティ、そしてまた今本当に作野議員さんが言われましたように経費、特にこの扶助費の伸びが全国伸びております。これをいかにまたその扶助費の中でも特にそういう医療費とか介護費等が伸びておりますが、ぜひともそれを議員御指摘のようにそういう面からそういう経費を削減していかなければならない。これは重要な課題であると思っております。

○議長（梅林 守君） 近藤市民生活部次長。

○市民生活部次長（近藤 隆君） 失礼します。

先ほど作野議員が計算された長寿獲得コストの数字につきまして、全国平均より低いと

いうことで、その原因というか理由でありますけども、なかなか具体的な理由というのは特定できませんが、あくまでもこれは推測ということでお答えさせていただきます。

まず、安来の地域的な特性であります生活習慣とか自然環境、社会環境等の特性の要因、または行政サイドから医療費適正化事業とか各種保険事業などの医療費抑制施策の効果の結果も一つの要因ではないかと推測されます。

以上であります。

○議長（梅林 守君） 2番作野議員。

○2番（作野幸憲君） なかなか答えづらい質問だったかもしれませんが、私は職員の皆さんを初め地域が全体となって知恵を絞っていろいろなことを考えていけば、医療や介護も含めていろいろなことがまだまだ節約できる部分があると思っております。ですが、なかなか市として、じゃあ医療、介護関係の費用を削減しましょうと言われても、市民の皆さんを動かさないとこれはできないことでございます。そういう意味でも、積極的に安来市をどういう方向に向かっていくかっていうことを、やっぱり交流センターだったら交流センターに安来市は医療、福祉関係の予算を減らしていくために皆さんに協力していただきたいというような大きな方向性を出して進めていただかないと、何事も進みません。ただ、単に事業をやったやったでは、これは私は解決にならないと思っておりますので、そのところももう一度いろいろと検討をいただいて、そのことを最後をお願いいたします。私の一般質問とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

○議長（梅林 守君） 以上で2番作野幸憲議員の質問を終わります。